



ヤゴのとり方かたのこつは、あるの

トンボがよくくるところ所をねらう

トンボの幼虫ようちゆうのヤゴは、トンボの種類しゅるいによって、見つかる場所ばしょが分かれています。
 山のけい流りゅうや中流ちゆうりゅうなどにいる、ムカシトンボ、カワトンボ、ハグロトンボなどのヤゴは、飼うのがむずかしいので、とるのはやめましょう。流れがゆるやかな小川や池、ぬまなど、トンボがよく集まるあつ所で、ヤゴを探さがします。ギンヤンマ、シオカラトンボ、オツネントンボ、アキアカネなど、たくさんの種類しゅるいのヤゴが見つかります。

種類しゅるいによって、水みずの中なかでの、いる場所ばしょもちがう

ヤゴは、種類しゅるいによって水中すいちゆうのいる場所ばしょに、ちがいがあります。水草や「も」がしげっている所ところを、じょうぶな網あみで何回もすくってみると、水中すいちゆうの水草などにつかまっている、イトトンボやギンヤンマの仲間なかまのヤゴがとれます。水底みずそこに足あしを入れたり、棒ぼうなどでつついて、一方向いちほうこうに追い出し、追い出した先のどろを網あみですくうと、水底みずそこをうろついているアカトンボやシオカラトンボのヤゴがとれます。どろの中なかにもぐり、目めとおしりの先さきだけ出しているサエトンボやオニヤンマのヤゴも、とれることがあります。

ヤゴの飼かい方かた

ヤゴは、ボウフラやイトミミズ、ミジンコなど生きてえさしか食べないので、飼かい続けるのはむずかしいものです。飼かえそうもなかったら、元もとの所ところへ返かえしてやりましょう。

大きめの水そうとエアープンプがあれば、流れがゆるい川や池などにいるヤゴなら、飼かうことはできます。水草を植え、水底みずそこにどろをしき、くみ置きした水道水や、中和剤で中和した水道水すいどうすいを使うのが大切です。また、水の温度たいせつが、ヤゴのいた川や池の水の温度みずおんどと、あまりちがわないようにします。（監修・中山 周平）

